

学校表彰

祝 卒業 72回生

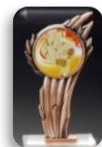


本校では、在校中に顕著な功績があった生徒について、その努力を称え、今後の益々の精進を期待して学校表彰を行います。

「八女高大賞」(1名)

「泉が丘賞」(4名)

「3年間皆勤賞」(75名)・「1年間皆勤賞」(46名)



八女高大賞表彰受賞者

泉が丘賞表彰受賞者



中尾 太一
(筑後北中学校出身)
〈文芸部〉



堤 花音
(黒木中出身)
〈剣道部〉



古庄 光瑠
(福島中出身)
〈文芸部〉



坂田 裕美
(福島中出身)
〈文芸部〉



佐藤 日向
(西中出身)
〈弓道部〉

八女高だより

《後輩へのメッセージ》

きついときに、立ち止まったり後退したりしてしまっても、自分を責めないでください。停滞を感じるのは努力している証拠です。自分のペースでいいので、ぜひ一日一日自分のやれることを精一杯してください。後輩のみなさんの今後の活躍を祈ります。最後に、私が今こうして偉そうに話ができるのは、ひとえに周りの人々のお蔭です。この場を借りて、心からお礼申し上げます。

「第72回卒業生同窓会新評議員」

3年3組 太田みのり(羽犬塚中出身)・3年5組 佐野 智将(筑後中出身)

スキー研修(2年)



1月14日(火)~17日(金)札幌テイネスキー場でスキー研修を行いました。今年は暖冬ということで降雪が心配されましたが、4日間天候にも恵まれ、大きなけがや病気もなく十分にスキーを楽しむことができました。生徒たちは、この研修を通して、最初は怖くてできなかったことも、逃げずに諦めずに続けていけば、ちゃんと克服できることを学びました。また、転んだときに励ましてくれる仲間存在の大きさ、人と心をこめてふれあうことで得る喜びの大きさも感じてくれたように思います。



令和元年度
第4号
(令和2年3月1日発行)
福岡県立八女高等学校
校長 別府 尚樹
編集 企画広報課



【本号の内容】
祝72回卒業
スキー研修
「なるには」シボジウム
OB紹介

観光



スキー研修を通して、困難を克服することを学びました。初めは転ぶことを恐れるばかりでしたが、その恐怖を乗り越え、何度転んでも起き上がることができること、転ぶのは恥ずかしいことではないことに気がきました。また、5分前行動を実践するためにすべきことを学びました。何時にどこで何をしなければならないのか、そのために自分は今何をすべきなのかを考えながら行動することの重要性に気がきました。

2年1組 田中 彩(筑後中出身)

この研修を通して学んだことの1つ目は、積み重ねが大事だということです。1日目は、立つことも難しく、何度も転んだりしましたが、失敗を重ねる中でどのようにしたらうまく滑れるかを考え、2日目、3日目と上達していくのが分かり、とても楽しく感じました。2つ目は、時間を守り、周りを見て行動することの大切さです。公共の交通機関では全体に迷惑がかからないよう、そして宿泊施設などでは一般の方々の妨げにならないよう配慮して行動しました。

2年6組 井ノ口 裕喜(福島中出身)

「なるには」シンポジウム・講演会(1年)

1月21日(火)に実施しました。福岡経済同友会より企業経営者4名の先生においでいただき、シンポジウムは「社会人にとって大切なこと」というテーマのもとご意見を頂きました。その後、分科会に分かれ、それぞれのテーマでご講演いただきました。

全体会の様子

木下先生のお言葉「幸運の女神は用意なき者には微笑まない」がとても印象的でした。



分科会の様子



木下 彰子 先生
「可能性は無限大」



木下 茂 先生
「考えよう！ライフ・ワーク～仕事により人生の可能性に挑む～」



右田 喜章 先生
「資源のない日本では人材が資源」



有馬 紀顕 先生
「既成概念を打ち破れ！」

立志講座(1年)・養志講座(2年)

2月6日(木)に実施しました。講師は本校49回生である医師の平島修氏をお招きして「人生は挑戦すること、そして続けること」という演題でご講演いただきました。現在、奄美大島で人の心に寄り添う、温かな医療活動を行われています。



《生徒の感想》

今回の講話を聞いて、大事なものは「知識」ではなく「知恵」を蓄えるということや「感性の声を信じて行動すること」です。私はこれまで周りの人の目を気にして、自分のしたい事が出来なかったり、我慢したりすることがたくさんありました。しかし、これからは感性の声を信じて行動し、後悔のないように学校生活を歩んでいきたいと思います。

また、先生が高校1年生の時は偏差値が40よりも下だったというお話を聞いてとても驚きましたが、医者になりたいという強い意志とその目標へ向かう努力があれば叶えられない夢はないと確信しました。私には夢があります。先生のように、周りから何を言われても諦めず、努力して夢を叶えたいと思います。

1年4組 内藤 駿介 (筑後北中出身)

4技能育成に向けて



本校英語科では4技能の育成に取り組んでいます。

1年次の英語表現Ⅰでは、20人の少人数で英語のみを用いて授業を行っています。「読む」「聞く」に加え、「話す」「書く」活動を多く取り入れています。スピーチ、インタビュー、暗唱、再生(聞いた内容を自分の言葉でまとめる)、ディベートやプレゼンテーションなど、様々な活動を通して、生徒たちの英語運用能力の向上に努めています。また、英語技能検定試験の二次面接にむけて丁寧に個別指導を行っています。

OB紹介

久良木 亮一(きゅうらぎ りょういち)氏
(高51回生平成11年卒業) 筑後中学校出身

<プロフィール>

- 1999年 八女高校 卒業
- 2006年 九州大学医学部医学科 卒業
- 2006年 九州大学病院 初期研修医
- 2007年 佐賀県立病院好生館 初期研修医
- 2008年 九州大学大学院医学研究院医学系学府外科学 専攻消化器・総合外科学
- 2012年 九州大学病院 血管外科
- 2013年 製鉄記念八幡病院 血管外科
- 2015年 九州医療センター 血管外科



資格：医師免許、医学博士(九州大学 甲)、日本外科学会専門医、心臓血管外科専門医・修練指導者、日本脈管学会認定脈管専門医、腹部ステントグラフト指導医、胸部ステントグラフト実施医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、下肢静脈瘤レーザー焼灼術指導医

高校時代は空手部に所属し、生徒会活動にも参加していました。

中学・高校時代、両手・両足の骨折や靭帯損傷を経験し、整形外科にお世話になったのをきっかけに、医師になることを決意。しかし現役時、医学部受験に失敗。原因考察とその対策を講じ、一浪を経て九州大学医学部に入学。漠然と手術ができる診療科を目指していたが、実習で回った第二外科(消化器・総合外科)の指導医(私が家庭教師をしていた生徒の父親の主治医)に熱烈勧誘を受け、入局を決意。2年間の初期研修の後、九州大学第二外科に入局。教授の推薦で血管外科を専攻。大学院にてマウスの実験にて論文執筆・博士号を取得。その後は関連病院にて血管外科医修練を継続中。

「病気に休みは無い！即ち医師にも休みは無い！」という指導の元、かなり「ブラックな」研修医時代を過ごすも、働き方改革の波に押しされどのようにして自分自身のワークライフバランスを保つか、また研修医指導を行っていくか、試行錯誤中。

外科医として働く上で一番大切なことは「考えること」だと思います。一見、手先の器用さが求められる外科医ですが、実際は効率的に目的を達成できるプロセスは何かを常に考えながら手術を進めています。これは受験勉強にも通ずるものだと思います。最低限の知識を暗記する必要はありますが、あとはその知識をどのように利用・活用するかを考えるプロセスの積み重ねが受験勉強のみならず社会人になってからも役立つと思います。高校時代は「考えるトレーニング」の土台作りの期間です！